



沖田 ゆかり 議員



録画映像

Q 女性や若者への支援を

A 町長

相談窓口の設置や「居場所づくり」の推進に取り組んでいく。

【Q1】

若者の妊娠前の健康管理として、※プレコンチェックシートのホームページ掲載と、情報を伝えるための取り組みは。

【A1】

町ホームページに男性用、女性用のチェックシートを掲載している。今後は二十歳を祝う会などで配布していく。

【Q2】

働く女性の健康推進として、以前三原市のLINE相談を、熊野町でも実施していただきたいと要望したが。

【A2】

熊野町では各ふれあい館で健康相談の実施やメールでの回答をしている。今後はLINEを含め相談体制など調査研究していく。

【Q3】

若者支援の課題は18歳以上の若者にアプローチする術が乏しく、安心して過ごせたり仲間をつくれる居場所が少ないこと。茨城県ひたちなか市堀崎町では、若者サポートステーションとして就労相談の実施や、みんなのたまり場、自習室、Wi-Fiのあるロビーなど多目的に利用可能なふれあいセンターなどを設置している。

熊野町でも取り組んでいただきたいが。

【A3】

若者の居場所づくりについて、今後努力していく。

※プレコンチェックとは・・・
将来の妊娠・出産に備え、妊娠前に自身の健康状態や妊娠への影響を調べる検査



Q 持続可能なまちづくりを

A 町長

将来世代の意思を政策決定に反映できる仕組みづくりに努めたい。

【Q1】

住民意識調査では、毎回、道路の整備について重要度が高いが、定期的に町内を循環して、計画的に町道の舗装工事を行っているのか。

【A1】

要望があれば現地を確認し、道路の損傷による第三次被害があるのか、交通量、周辺の開発状況などで判断をしている。

【Q2】

まちづくりに多様な女性の声が反映されていない。豊島区では※F1会議として女性ばかりのグループで意見が交わされ、まちが変わっていくことに期待感があるとのこと。熊野町でも取り組んでいただきたいが。

【A2】

社会教育団体など女性が集まってまちづくりを考えるなど今後、教育委員会とも連携して取り組んでいきたい。

【Q3】

将来世代が感謝したくなるまちづくりのために、取り組んでいくべきではないか。

【A3】

前向きに取り組んでいく。

※F1とは・・・
20代から30代の女性のこと。
(F1世代と呼ばれます)



Q 筆の里工房周辺整備事業の取り組みは

A 町長

文化芸術への取り組みを通じて、地域の活性化を図る。



録画映像



民法 正則 議員

【Q1】

中溝地区から、新施設への賑わいルートを整備するため、誘導看板の設置や坂面大池の歩道面の舗装など基本的なハード整備も重要ではないか。

【A1】

旧市街地から安全に歩いて来られるよう、誘導看板や歩行環境の改善について研究する。

【Q2】

現在筆の里工房がKCP(クマノ・クリエイティブ・パレット)という組織を立ち上げ、地域住民の参画や意見聴取を得ながら継続的に筆の里創造の丘公苑について協議を重ねている。私もメンバーの一人として参加しているが、役場としてどのように関与するか。

【A2】

情報発信や関係機関への接続など、KCP

の活動が拡大・具体化するよう支援を行う。

【Q3】

「観光を考える会」が昨年からアクセス改善に取り組んでいる。中溝地区から創造の丘公苑等の移動手段として時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス「グリーンスローモビリティ」は導入できないか。

【A3】

「筆の日」に試行運転すると聞いているのでこれからの取り組みも踏まえて今後研究していく。



▲ グリーンスローモビリティ

Q 地域おこし協力隊の活用を

A 町長

地域課題の解決や活性化の担い手として、制度の活用を図る。

【Q1】

協力隊員の募集はどのように行っているか。

【A1】

町のホームページや県・全国の協力隊の募集サイトを活用し、広く情報発信を行っている。

今後は、民間求人サイトの活用も検討し、募集方法の充実を図る。

【Q2】

前回の活動を検証して町のサポート体制、地域との関わり方など改善点を把握したのか。

【A2】

活動内容や地域との関わり、住環境・町のサポート体制について検証を行った。改善点を整理し次回の受け入れに生かしていきたい。

【Q3】

採用目的や求める人物像に沿った審査基準や方法を定めて任用することが重要ではないか。

【A3】

町の特性を踏まえたうえで、活動が地域活性化に結びつくような任用方法を検討し、より効果的な制度活用を図っていきたい。

【Q4】

町に適した活動を考えた方が良いのではないか。

【A4】

熊野筆や筆文化など地域資源を生かした情報発信や交流創出が有効と考える。

地域を知る期間を設け段階的に活動を進めることで、定着と地域活性化につなげていく。